



「マニュアル・テスト・スクリプトの作成」チュートリアル

目次

マニュアル・テスト・スクリプトの作成 . . 1

入門: 「マニュアル・テスト・スクリプトの作成」チュートリアル 1

演習 1: 簡単なマニュアル・テスト・スクリプトの作成 2

演習 2: 検査ポイントの作成 3

演習 3: 複数のステップからなるグループの作成 . . . 4

演習 4: 報告ポイントの作成 5

要約: 「マニュアル・テスト・スクリプトの作成」チュートリアル 7

マニュアル・テスト・スクリプトの作成

このチュートリアルでは、いくつかの異なるマニュアル・テスト・ステートメント・タイプを含むマニュアル・テスト・スクリプトを作成する方法について段階的に説明します。 マニュアル・テスト・プロジェクトを開く方法と、ステップ、検査ポイント、報告ポイント、およびステートメントのグループをスクリプトに組み込む方法を示します。

学習目標

このチュートリアルを完了すると、マニュアル・テスト・プロジェクトを開くこと、および新しいマニュアル・テスト・スクリプトを作成して保存することができるようになります。

必要な時間

30 分

関連情報

サンプル: マニュアル・テスト作成スクリプト



PDF 版の表示

入門: 「マニュアル・テスト・スクリプトの作成」 チュートリアル

このチュートリアルでは、Classics Java™ アプリケーションの注文項目の機能をテストするマニュアル・テスト・スクリプトを作成します。

完成したサンプル・スクリプト TutorialCreate.rmt もご覧ください。これは、 *install-location/SampleScripts* フォルダ (*install-location* は Rational® Manual Tester がインストールされているディレクトリー) にあります。

学習目標

このチュートリアルを完了すると、以下のタスクを実行できるようになります。

- マニュアル・テスト・プロジェクトのオープン
- 新しいマニュアル・テスト・スクリプトの作成と保管
- 4 つの異なるステートメント・タイプの入力
- あるステートメント・タイプから別のステートメント・タイプへの変更
- グループ内の一連のステップのインデント

必要な時間

このチュートリアルに必要な時間は、約 30 分です。

前提条件

このチュートリアルでは、Manual Tester 製品のクイック・ツアーが完了済みで、IBM® Rational Manual Tester のユーザー・インターフェースの使用方法を知っていることを前提とします。

演習 1: 簡単なマニュアル・テスト・スクリプトの作成

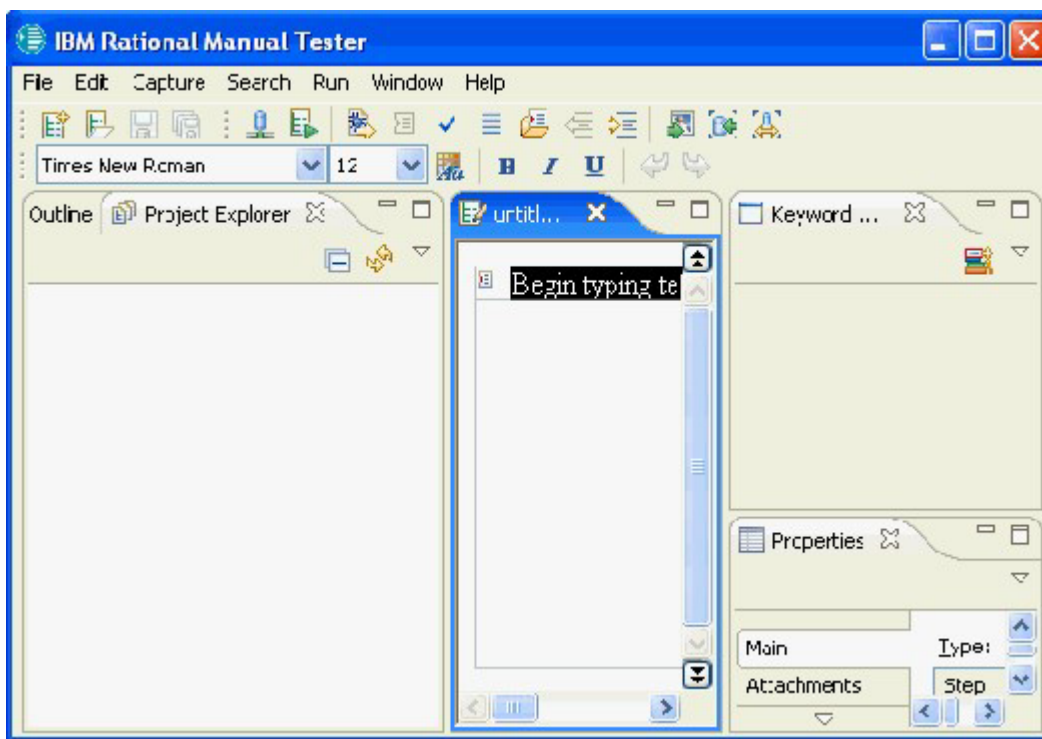
オーサリング・エディターを使用して、2 つのステップからなる簡単なマニュアル・テスト・スクリプトを作成します。

1. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「IBM Rational Manual Tester」 → 「ClassicsJavaA」をクリックして、Classics Java アプリケーションを開始します。
2. Manual Tester で、サンプルのマニュアル・テスト・プロジェクトを開きます。

プロジェクトによって、テスト資産の編成および追跡が可能になり、誰がファイルを変更できるかを制御できます。

- a. 「プロジェクト・エクスプローラー」タブをクリックします。

「プロジェクト・エクスプローラー」タブは、デフォルトで「Manual Tester」ウィンドウの左側のペインに「アウトライン」ビューと一緒に表示されます。



- b. 「プロジェクト・エクスプローラー」ビューを右クリックし、「プロジェクトを開く」をクリックして、サンプル・プロジェクトの場所を参照します。

サンプル・プロジェクトは、*install-location*\SampleProject フォルダ (*install-location* は Rational Manual Tester がインストールされているディレクトリ) にあります。

3. オーサリング・エディターで、最初のステップ・アイコン () の右側にカーソルがあることを確認して、以下のテキストを入力します。

Start the Classics Java A application.

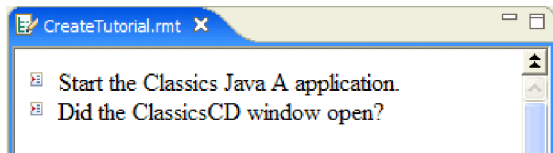
その後、Enter を押します。カーソルが次の行に移動し、別のステップ・アイコン () が表示されます。

4. 2 番目のステップ・アイコン (🔍) の右側にカーソルがあることを確認してから、以下のテキストを入力します。

Did the ClassicsCD window open?

その後、Enter を押します。

これで、2 つのステップからなるマニュアル・テスト・スクリプトができました。



演習 2: 検査ポイントの作成

検査ポイントでは、「Did the User Login window open?」などの、テスト対象のアプリケーションに関する質問が表示されます。

1. 先ほど入力したこのステートメントは質問を提起しているため、ステートメントをクリックしてから、「Manual Tester」ツールバーで「検査ポイントとして設定」(🔍) をクリックして、ステートメント・タイプを検査ポイントに変更します。Manual Tester によってステップ・アイコン (🔍) が検査ポイント・アイコン (🔍) に変更されます。
2. 「ファイル」→「保管」をクリックし、そのスクリプトに CreateTutorial という名前を付けて、スクリプトを保管します。「保管」をクリックすると、拡張子 .rmt がスクリプト・ファイル名に自動的に追加されます。

ヒント: このチュートリアルの実行中には、頻繁に保管を実行してください。

3. 次のステップ・アイコン (🔍) の右側をクリックしてから、以下のテキストを入力します。

Expand the Bach folder.

その後、Enter を押します。このステートメントはステップでなければなりません。ステップでない場合、「Manual Tester」ツールバーの「ステップとして設定」(🔍) をクリックします。

ヒント: タスクバーの「ClassicsCD」または「Manual Tester」をクリックすると、これら 2 つのプログラムの間を切り替えることができます。これにより、アプリケーション内のステップを検査した後、スクリプトの作成に戻ることができます。

4. スクリプト内の次のステップ・アイコン (🔍) で、以下のテキストを入力します。

Under Bach, click Violin Concertos.

その後、Enter を押します。

5. スクリプト内の次のステップ・アイコン (🔍) で、以下のテキストを入力します。

Click the Place Order button.

その後、Enter を押します。

ここまでで、5 つのステートメントをスクリプト内に作成しました (このうち 4 つはステップ、1 つは検査ポイントです)。「Manual Tester」ウィンドウの左側の「アウトライン」ビューをご覧ください。

「アウトライン」ビューには、作成中のスクリプトの構造が表示されます。各ステートメントの最初の数文字が表示されます。スクリプト内のステートメントを変更することなく、「アウトライン」ビューの任意のステートメント名をわかりやすい名前に変更することができます。

6. スクリプト内の次のステップ・アイコン (📄) で、以下のテキストを入力します。

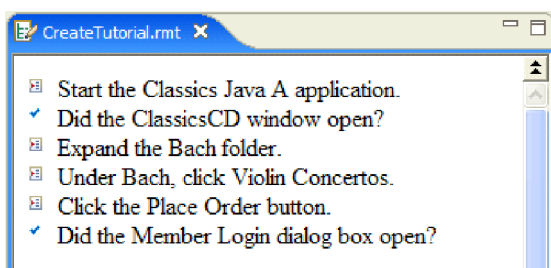
Did the Member Logon dialog box open?

その後、Enter を押します。

7. このステートメントは質問を提起しているため、検査ポイントにする必要があります。ステートメントの上にカーソルを置き、「Manual Tester」ツールバーの「検査ポイントとして設定」 (✓) をクリックします。

Manual Tester によってステップ・アイコン (📄) が検査ポイント・アイコン (✓) に変更されます。

マニュアル・テスト・スクリプトには 6 つのステートメントが含まれているはずです。そのうちの 4 つはステップで、2 つは検査ポイントです。



演習 3: 複数のステップからなるグループの作成

ともに実行される一連のタスクを形成する複数のステップがある場合、それらをグループ化します。最初にグループ・フォルダーを作成してから、ステートメントをそのグループに追加します。

ステップのグループを作成するには、以下の手順を実行します。

1. スクリプトの次の行で、ステップ・アイコン (📄) の右側をクリックしてから、「グループ・タイプとして設定」 (📁) をクリックします。Manual Tester によってステップ・アイコン (📄) がグループ・フォルダー・アイコン (📁) に変更されます。
2. グループ・フォルダー・アイコン (📁) の横にカーソルを置き、以下のテキストを入力します。

Log In As Existing Customer.

その後、Enter を押します。Manual Tester によってカーソル位置が変更され、次に入力するステートメントはグループ・フォルダーの下にインデントされます。

3. グループ内の最初のステップ・アイコン (📄) で、以下のテキストを入力します。

Make sure Existing Customer is selected.

その後、Enter を押します。

注: Manual Tester により、入力したステートメントはグループ・フォルダーの下にインデントされます。

4. グループ内の次のステップ・アイコン () で、以下の 3 つのステップを入力します。各ステップを入力するたびに Enter を押してください。

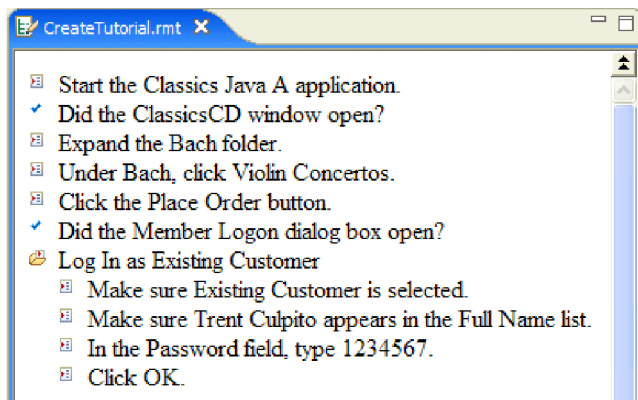
Make sure Trent Culpito appears in the Full Name list.

In the Password field, type 1234567.

Click OK.

これらのステップはグループに含まれるため、それぞれが Manual Tester によってインデントされます。これで、4 つのステートメントからなる 1 つのグループを作成しました。

ここまでで、ステップ・ステートメント、検査ポイント、およびステップのグループを持つマニュアル・テスト・スクリプトができあがりました。



演習 4: 報告ポイントの作成

報告ポイントを追加します。報告ポイントは、検査ポイントよりも注意を払う必要がある質問を提起します。これらのポイントは多くの場合、レポートに組み込まれます。報告ポイントでは、スクリプト内の幾つかの検査ポイントの結果を要約できます。その後、それらの上位レベルの結果をステータス・レポートに組み込むことができます。

報告ポイントを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 次のステートメントはグループの一部ではないので、「グループから削除」 () をクリックします。これで、カーソルはインデントされなくなります。
2. スクリプトの次の行のステップ・アイコン () の右側にカーソルを置いて、次のテキストを入力します。

Was the order placed correctly?

その後、Enter を押します。ここで入力したステートメントは検査ポイントに似ていますが、検査ポイントよりも重要です。この質問への返答は報告に含めることが適切です。この返答を報告に含めるため、このステートメントを報告ポイントに変更します。

3. 先ほど入力したステートメントにカーソルを置いてから、「Manual Tester」ツールバーの「報告ポイントとして設定」 () をクリックします。Manual Tester によってステップ・アイコン () が報告ポイント・アイコン () に変更されます。

注: 先ほど入力した報告ポイントは、「Log in as Existing Customer」グループの一部としてインデントされてはいけません。インデントされている場合、報告ポイントをクリックしてから、「Manual Tester」ツールバーの「グループから削除」(🗑️)をクリックしてください。

4. 次のステップ・アイコン (📋) で、以下の 3 つのステップを入力します。各ステップを入力するたびに Enter を押してください。

In the Card Number field of the Place an Order dialog box, type 5555 1212 5555 1212.

In the Expiration Date field, type 10/06.

Click the Place Order button.

5. 次のステップ・アイコン (📋) で、以下のテキストを入力して、報告ポイントとして設定します。

Was the Message Box displayed that indicates your order has been received?

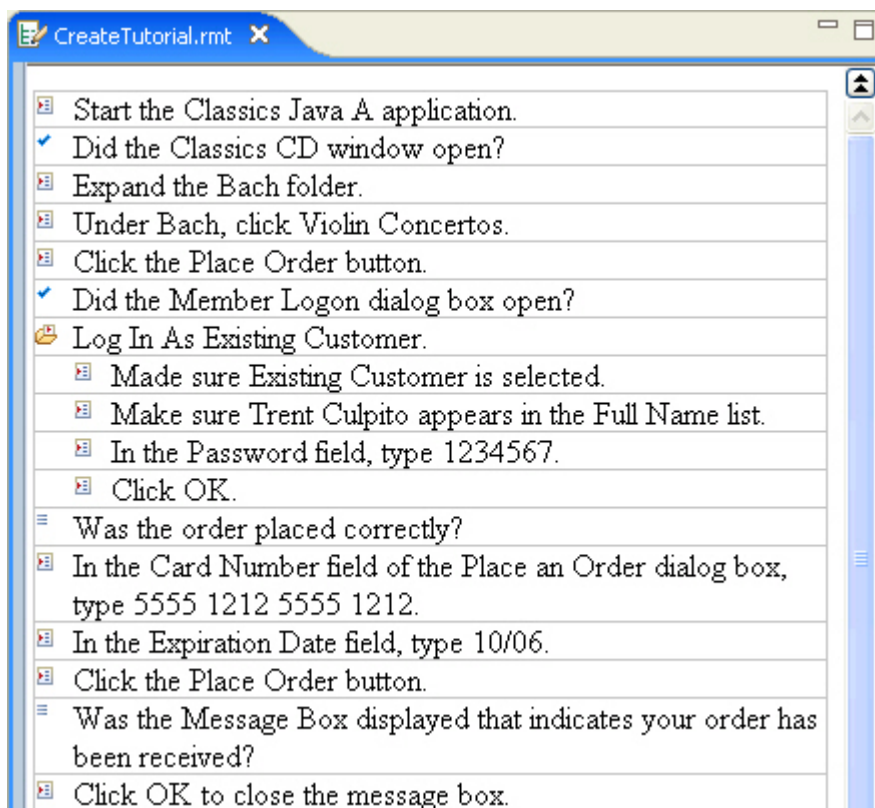
Enter を押します。

6. スクリプトの最後の行で、以下のステップを入力します。

Click OK to close the message box.

7. 「ファイル」 → 「保管」をクリックして、スクリプトを保管します。

マニュアル・テスト・スクリプトが完成しました。以下に示すステートメントがスクリプトに含まれているはずです。



これでこのスクリプトを、「マニュアル・テスト・スクリプトの実行」チュートリアルで説明されているように実行する準備が整いました。

要約:「マニュアル・テスト・スクリプトの作成」チュートリアル

お疲れ様でした。マニュアル・テスト・スクリプトの作成 チュートリアルが完了しました。このチュートリアルでは、17 個のステートメント (12 個のステップ、2 つの検査ポイント、1 つのグループ、および 2 つの報告ポイント) を含むマニュアル・テスト・スクリプトの作成方法について説明しました。

学習した演習

このチュートリアルを完了した後、以下のタスクを実行できるようになりました。

- マニュアル・テスト・プロジェクトのオープン
- 新しいマニュアル・テスト・スクリプトの作成と保管
- 4 つの異なるステートメント・タイプ (ステップ、検査ポイント、グループ、報告ポイント) の入力
- あるステートメント・タイプから別のステートメント・タイプへの変更
- グループの作成、およびグループへの一連のステップの組み込み

追加リソース

ファイル `CreateTutorial.rmt` は、完成したスクリプトのサンプルです。このファイルは `install-location¥SampleProject` フォルダー (`install-location` は Rational Manual Tester がインストールされているディレクトリ) に含まれます。自分で作成したスクリプトをこのスクリプトと比較することも、他の Manual Tester チュートリアルで使用することもできます。

このチュートリアルで扱ったトピックについてより詳しく知りたい場合は、IBM Rational Manual Tester のオンライン・ヘルプを参照してください。